

「9条改憲は許さない」と呼びかける声明を発表した。

声明では、今回の解散を「森友・加計問題の疑惑徹底解明を求める臨時国会の開催を葬り去り、『今なら勝てる』との冒頭解散は、党利党略、権力の私物化だ」と指摘。出演した番組で安倍首相が「自衛隊の存在を明記することに向けて議論が進む」などと述べたことから、選挙の結果次第では「改憲発議に向け一気に走り出すことは明らかだ」とした。その上で、「自衛隊が『合憲』か『違憲』か等の考え方の違いを超えて『安倍政権の下で9条改憲は許さない』の一点で共同すること」を全国の市民に呼びかけた。

自民公約、憲法9条に自衛隊明記へ 首相が明言

安倍晋三首相は25日、臨時国会冒頭の衆院解散を記者会見した後、その夜、様々なニュース番組に出演し、好き勝手に「国難」等と解散理由を繰り返して語り続けていました。その中のNHK番組で、衆院選の自民党公約に憲法9条への自衛隊明記を盛り込むと明言しました。

安倍首相は憲法改正について「スケジュールありきではないが、我が党は党是として憲法改正をずっと訴えてきた。今度の選挙では党の考え方を示していくことになる」と選挙の争点にする考えを明らかにしました。

そのうえで憲法9条への自衛隊明記について、「北朝鮮がこういう状況の中にあって最前線で頑張っている自衛隊の皆さんがいる。選挙公約の書き方は自民党の中で議論していくが、基本的には自衛隊の存在を明記することに向けて議論が進んでいく」と語りました。

安倍首相は、憲法改正の発議について「与党だけで発議できるとは考えていない。できるだけ多くの党の賛成を得たい」と述べた。さらに新党設立を表明した小池百合子・東京都知事や日本維新の会の名前を挙げて「小池さんも維新も憲法改正には前向きなんでしょうと思う。そういう意味では、改憲について前向きな党自体はもしかしたら増えていくのかもしれない」との認識を示しました。安倍首相にとって、自民党の補完勢力と指摘される「希望の党」は、まさに希望の党のようです。

一方で、与党の自民党と公明党間では、憲法改正をめぐる温度差が鮮明になっています。26日に公明党が開いた党政調全体会議では、公約に盛り込む予定の項目を列挙した資料が配られましたが、政策の1~6に憲法はなく、番外に「憲法に対する考え方」があり、会議では触れられなかったと報道されています。公明党内では、首相の前のめりな姿勢に警戒感が強く、山口那津男代表は「自民党が何を訴えるかは、自民党自身が決めることだ」と発言し、距離を置いています。

市民連合が4野党に、

野党のたたかい方と政策に関する要望書を提出

市民連合（安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合）は26日、日本共産党、民進党、自由党、社民党の野党4党に対し、次期衆院選での野党のたたかい方と政策に関する要望書を提出しました。

要望書では、安倍晋三首相が表明した臨時国会冒頭解散について、「言論に基づく議会政治を否定し、立憲民主主義を破壊する暴挙」だと批判。その上で、立憲主義の原理を共有する4野党が、小選挙区で地域事情を勘案し、候補者をできる限り調整することで「与野党1対1の構図」をつくり、「国民に憲政と民主主義を擁護する選択肢を提供する責任があります」と強調しました。

要望する政策は、9条改定への反対や、安保法制、共謀罪法などの廃止、福島第1原発事故の検証のないままの再稼働を認めないことなど、7項目にわたって提示。4野党がこれらの政策を重く

受け止め、「安倍政権を倒すという同じ方向性をもって、全力で闘うことを求めます」としました。

市民連合は4野党への要請後、国会内で記者会見し、山口二郎法政大学教授は「野党の候補者一本化に向けて、各党の明確な意思が確認できた」と述べました。各党の対応として「要望された政策の実現、総選挙での与野党1対1の構図に向けてできることを全力でやりたい」（民進）、「要望は全面的に賛同、共有したい」（自由）などの回答があったと説明しました。

各地のとりくみ

三重 「市民連合みえ」、「安倍政権の疑惑隠し解散に抗議する」緊急街宣

「市民連合みえ」は21日、津駅前で「安倍政権の疑惑隠し解散に抗議する」緊急街宣に取り組みました。のべ100人が集まり、総選挙での市民と野党の共闘、安倍政権退陣を呼びかけました。

「市民連合みえ」呼びかけ人の岡歩美さんは「今回の解散は、疑惑隠し解散、解散権の私物化です」と述べ、「総選挙で安倍さんの政党に多数を許せば、日本の民主主義そのものが破壊される」と批判。解散までに大切なことは「地域から市民と野党の共闘を押し進めること。市民の声を可視化し一人ひとりが声を上げよう」と訴えると、「そうだ」の聲がかかり、「みんなのための政治を、いま」と書いたプラカードが揺れました。

呼びかけ人の高山進三重大学教授は、「国民をなめている解散を許さない」と述べ、「市民連合みえの参院選のスローガン『市民が強く求めれば野党の共闘は実現する』を、総選挙でも実現していこう」と呼びかけると、拍手が起きました。

訴えを聞いた女性は、「国民をなめている解放、そのとおり。解散で疑惑を忘れさせようとしているが、国民は忘れない」と語りました。



北海道・北広島 市民連合30人で3000万署名を呼びかけ

北海道の「安保法制の廃止と立憲主義の回復を求める市民連合北広島」は、戦争法廃止・安倍政権退陣を求め、JR北広島駅前で行いました。

30人が「森友・加計問題疑惑の解明を」の横断幕、「憲法改悪許さない」のプラカードを掲げ、「安倍9条改憲NO! 憲法を生かす」3000万署名を呼びかけました。

JRの乗降客やバスを待つ市民らがビラを受け取り、宣伝に注目していました。

市民連合北広島は、2年前に強行された戦争法を廃止させようと昨年府月二市民と市議らが共同で発足させました。同4月の衆院選5区補選では、市民と野党が統一して推した池田真紀勝利に奮闘しました。毎月19日には北広島駅前で行っています。

佐藤将共同代表は、安倍首相が森友・加計疑惑にふたして解散する暴挙を批判。「疑惑隠しの安倍政権は許すわけにいかない。市民と野党が共闘し、私たちの代表を選び、安倍政権に代わる政治をつくらう」と呼びかけました。

徳島 市民連合らが共産党県委員会に野党統一候補の早期決定を要請

市民連合・徳島と安倍政権打倒に取り組む「もえぎの会」は22日、共産党徳島県委員会を訪れ、総選挙に向けた野党統一候補の早期決定を要請しました。上村秀明県委員長、吉田元則県書記長が応対し、懇談しました。

要請は、野党統一候補が実現すれば、「県民の期待も高まり、投票率を押し上げて、勝利にちかづく」として統一候補の早期決定を求めています。

市民連合・徳島の山本純代表は「国民は安倍政権に代わる選択肢を求めている」と述べ、もえぎの会の諏訪公子共同代表は「安倍政権打倒で協力してほしい」と語りました。

上村氏は、地方問題も含めた共通政策での合憲、相互に推薦・支援する態勢づくりが要だとして、「市民と野党が手を取り合い、安倍政権を退陣させよう」と語りました。

両団体は、民進党県連にも要請しました。